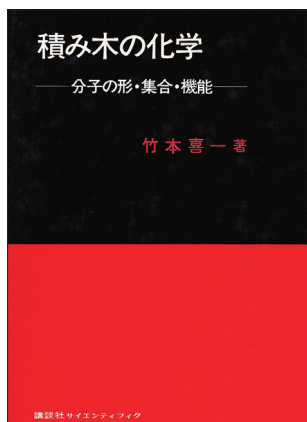


## ■若手に読んでもらいたい本

川口春馬のおすすめ  
神奈川大学工学研究所 客員教授

分野：化学  
書籍名：積み木の化学  
一分子の形・集合・機能一  
著者名：竹本喜一  
出版社：講談社サイエンティフィク  
出版年：1981年  
価格：2,500円

世界は分けてもわからない——分子生物学の研究者でエッセイストである福岡伸一先生の本のタイトルである。そのタイトルのように、分けて、分けて、分けきって、そのユニットの本質をつかんでみても、モノ本体の本質をつかみきれないことは多々ある。

高分子化学の分野でも、物質の最小単位“分子”レベルだけでモノを見ていてもその先の進展は知れていると、三十余年前に説いた先生がいる。その人は竹本喜一先生、1981年「積み木の化学」（講談社サイエンティフィク）を出版した。

この本はかしまった参考書ではない。筆者の思いが熱く伝わる読み物ととらえるほうが当たっているように思う。その書の第1章は『機能性高分子の限界』。当時成長途上にあった“機能性高分子”に、“限界”という大胆なタグを付けたところに筆者の明確な思想が読み取れる。本書の趣旨は、く巧妙にデザインされた機能性高分子を創

り出すことは大事だが、それをゴールと考えてはいけない。目標は機能を役立てることで、そのため、分子のあり方を吟味し、それらを組み合わせ、時には分子の自己集積能も利用して、生命体が獲得しているような高度の機能システムを考えていこう>というものである。最終章『積み木の化学への序論』に、組み合わせ積み上げる“積み木になぞらえられる化学”に向けての進み方についてアドバイスが述べられている。

30年前あれだけ斬新であった本が、性急な時代の流れの中で、少しばかり色が薄れたきらいは否定できないが、まだまだ多くの示唆を見つけ出せる書冊である。



## ■私の役に立った本

菅浦弘人のおすすめ  
大日本印刷(株)開発研究センター

分野：病理学  
書籍名：ロビンズ基礎病理学  
原書8版  
著者名：Vinay Kumar, Abul K. Abbas, Nelson Fausto, Richard N. Mitchell  
監訳 豊岡伸哉・高橋雅英  
出版社：丸善出版(株)  
出版年：2011年  
価格：18,000円+税

「私の役に立った本」というよりも、「今も役に立っている本」を紹介させていただきます。

今回紹介させていただく本は「ロビンズ基礎病理学」です。

印刷会社の社員がなぜ病理学の本を紹介するのか？と不思議に思う方も多いかもかもしれません。実は、大日本印刷では東京女子医科大学 岡野光夫教授や東京医科歯科大学 森田育男教授をはじめとする先生方のご指導をいただきながら、再生医療の実用化に向けた研究を数年前から行っています。そのため、私自身も医師や歯科医師の先生方と一緒に仕事をすることが多くなり、病気や医療に関するディスカッションが増えました。そのディスカッションでは、私が今まで知らなかった病名や病態のメカニズムなどの話が含まれることがあります。高分子がベースの私に理解できるわけもなく…。そのとき、仲の良い産婦人科医の先生から紹介されたのが、「ロビンズ基礎病理

学」でした（実際に紹介されたのは第6版です）。この本は、病気の成り立ちから症状まで、図や表を使いわかりやすく丁寧に解説してあります。もちろん、私のような門外漢でも理解できます。ディスカッションが終わった後に、こそこそ「ロビンズ」を開く毎日を送っています。

医療関係の方との仕事が増えましたら、是非お勧めの本です。

